

令和 8 年度 入学試験問題

総合問題(教育支援専門職養成課程・教育ガバナンスコース)

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 解答はすべて別紙解答用紙に記入下さい。
3. 解答用紙は4枚、草稿用紙は2枚です。
4. 解答方法が論述方式の場合は、1マス目から書き始め、1文字空けた
り、改行したりせずに横書きで書き進め下さい。
5. 各解答用紙には、受験番号を記入する欄がそれぞれ1箇所あります。
すべて記入下さい。
6. 試験終了後、問題冊子と草稿用紙は持ち帰り下さい。

- I 子育て中の保護者をどのように支援するかは、国内外を問わず重要な課題である。資料1はイギリスの民間団体「ピープ」の活動について、資料2は和歌山県橋本市の公的な家庭教育支援チーム「ヘスティア」の活動を紹介したものである。資料を読んで、問1から問2に答えなさい。

資料1

オックスフォード大学に近いショッピングセンターに、「ROOM TO PLAY」と表示された部屋がある。5歳以下の子と一緒になら、だれでも利用できる。

母親ら7人の大人と9人の子どもたちがいた。おもちゃのベビーカーを押したり、ぬいぐるみで遊んだりする子どものまわりで、親たちはソファに座っておしゃべりに興じていた。子どもが絵本へ手をのぼすと、スタッフが親に声をかけ、子どもに気を向けさせた。

「子どもはきっかけ。私たちのターゲットは親よ」。

運営する親支援の民間団体ピープ(PEEP)の研究開発責任者、サリー・スミスさんは言った。

日本でも深刻化しているネグレクト(育児放棄)。子どもに食事を与えなかったり、ケガや病気でも病院へ連れて行かなかったりする事例が各地で報告され、「親の再教育」の必要性が叫ばれる。1995年に設立したピープも「育児に関心がない」「どうしていいかわからない」という親たちと向き合う。「子どもの最初の教育者である親の教育」が活動の目的だ。

部屋のあちこちにある遊び道具には、それぞれ簡単な説明書きがある。チョウの形の厚紙がいくつか並ぶ机には「数字を覚えるのに役立ちます」。チョウの羽を数えながら足し算が身につく。開閉して遊びながら図形の「対称」を知る。ゼリー状のおもちゃの横には「遊びながら子どもと話そう。ぐちゃぐちゃにしよう」。スタッフのデビー・ロードマンさんは「触りながら、音がするねとか、いいにおいだねとか、会話を通じて親子関係を築く道具です」。

周辺には4つの「貧困地区」がある。そういった地区に住む親は、庶民的なショッピングセンターで過ごすことが多いという調査結果がある。普段は周囲

から孤立している家族も立ち寄る。そんなデータを基にセンター内に部屋が設置された。氏名や住所を登録する必要はない。週に平均 250 人が利用する。

基本にしている考え方は「non judgemental(評価や批判はしない)」。スミスさんが説明してくれた。「明らかに問題がありそうな親で、子育てがうまくいってなくても、親個人を尊重することが大事」。親としていいか悪いかを、判断せず、「親力」を養ってもらおう。

ピープは地域内で育児サークルも開いている。

6 月下旬の昼過ぎ、貧困地区内にある診療所に乳児連れの母親ら、6 組が集まった。「ここに来るまで、子育ての仕方が分からなかった」と話すのは、5 か月の長男と参加したアナさん。前年の 9 月、ポルトガルから移住してきた。知り合いができる間もなく出産。生後 6 週目、健診にきた診療所でピープを知った。

「他の親子に会えて楽しいし、子どもが何に興味があるのか気付けた。ここで覚えた本の読み聞かせを家でも試すの」。

「教える」のではなく、グループで読み聞かせや体操、遊び、本の手作りなどを通して子どもと向き合い、親としての自覚や自信を身につけてもらう。

当初はソファに座って子どもを放っておいた母親が、子どもがシールをはったのを見て褒めるようになった。自分の子に絵本を読み聞かせると、他の子が集まってきたのを喜び、自慢顔で読み続けた母親もいる。

(出典)中塚久美子『貧困の中でおとなになる』(かがわ出版, 2012 年)の 161-164 頁を一部改変。

資料 2

和歌山県橋本市の家庭教育支援チーム「ヘスティア」は、2008 年に組織され、今年で 9 年目を迎えています。

メンバーは、教員経験者、主任児童委員、支援者養成講座を修了した者、読書指導に携わってきた者、保育士、栄養士、臨床心理士、小中学校の非常勤講師などから構成されています。

チームの愛称「ヘスティア」は、「home support team」の頭文字をとってアレンジしたものです。ヘスティアは、ギリシャ神話のかまどの女神の名前でもあります。古代ギリシャでは、かまどは家庭の中心だったことから、家庭生活の守護神とされたそうです。私たちは、家庭での子育てと親育ちを少しでもサポートできたら、との思いからこの名前を使わせていただいています。チーム員は、講座部、広報部、家庭訪問部に分かれて活動しています。

講座部は、市内の小中学校や幼稚園、保育園、育児サークルからの依頼を受け、保護者が集まる機会をとらえて語り合い、つながり合うお手伝いをします。ここでは、語り合い班とアラカルト班の活動について紹介します。

語り合い班は主に、園、学校などでの懇談会や、翌年小学校に入学する子どもの就学時健診の際に講座を行っています。参加した保護者からは「知り合いがいなくて不安だったが、近所の同級生がわかって安心した」「他の人にも同じような子育ての悩みがあるとわかり、ほっとした」「入学についての不安が軽減された」などの感想があります。

保護者のなかには、積極的に他人と関わろうとする気持ちが希薄な人もいるように思われます。そのため、お互いが顔見知りになり、横のつながりをつくるためには、意識的にその機会をつくる場の提供が必要です。しかし、私たちの語り合いの講座は「こうでなければならない」というように決めつけるものではなく、参加した人自身が、感じたり、気づいたりしてもらえればいいものだと思います。

アラカルト班の講座は、保護者が気軽に楽しく参加できるように考えてつくられました。親子で楽しめるおもちゃづくりは、親子サークルで喜ばれる講座です。橋本市の地場産業であるパイルの端切れ(半端な布切れ)や身近な材料を使って簡単にできるものを考案しています。ユニークでかわいいパペットなどの手づくりおもちゃは、親子のふれあいのアイテムになり、製作の過程での参加者同士のおしゃべりは、子育ての仲間づくりに大いに役立っています。写真を美しくレイアウトするスクラップブックも、子どもの成長や家族の絆を確かめることができる講座であり、あらゆる年代の保護者に人気があります。またアクセサリーづくりなども、母親たちの参加率の高い講座です。

チーム員が子どもを見守っている間、参加者は流行の美しいクラフトづくりに熱中します。講座終了後のアンケートには「ひととき子育てから解放されてリフレッシュできました」「楽しい時間を持てたことで、また子育てをがんばる力が湧いてきました」などの言葉が躍っています。楽しい時間を共有することで、子育ての喜びや悩みを自然に語り合える仲間づくりができ、孤独な子育てから少しでも抜け出す機会になればと願っています。

(出典)橋本市家庭教育支援チームヘスティア「子育て支援のあるべき姿を追い求め」『月刊社会教育』No. 726(2016年)の11-14頁を一部改変。

問 1 資料 1 から、ピープは、その活動の場所について、保護者が活動に参加しやすいような配慮・工夫を 2 点行っていることが分かる。その配慮・工夫を 2 点とも答えなさい。その際、そのような配慮・工夫を行っている理由もあわせて答えなさい。

問 2 資料 1 と 2 からは、子育て中の保護者が抱えている課題に対応する上で、共通する配慮・工夫を 3 点読み取ることができる。その配慮・工夫とはどのようなものか。また、なぜそのような配慮・工夫をとるのか。3 点の配慮・工夫とその理由について答えなさい。その際、配慮・工夫についてはそれぞれ 40 字から 70 字で、理由についてはそれぞれ 70 字から 100 字で述べなさい。

II 日本のインターナショナルスクールに関する記事を読み、問1から問4に答えなさい。

(記事)

Thousands of Japanese children in Tokyo are skipping the traditional school system — and heading instead to international schools where lessons are in foreign languages and curriculums are flexible. These schools aren't part of Japan's official education system.

In Japan, both public and private schools are required to follow a national education curriculum and are eligible for public *subsidies. But only a small number of international schools are officially recognized by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, and ⁽¹⁾students who attend *unaccredited schools are not always considered to have completed elementary or junior high school under Japanese law. ⁽²⁾Parents who choose to send their children to unaccredited schools *face fines for violating the education law. In practice, however, *enforcement is left to local governments and varies by *jurisdiction. School fees are expensive, too, usually ranging from around 1 to 3 million yen. If the schooling includes a *boarding program, the fees can soar to nearly 10 million yen.

The Aoba-Japan International School in Tokyo's Nerima Ward is *seeing a quiet shift. Its students, aged 3 to 15, come from a range of cultural backgrounds, but these days about half of them have Japanese nationality. Classes are small by Japan standards — just 20 students to a room — and there are no textbooks. Instead, students follow a globally recognized curriculum designed to prepare them for admission to universities overseas. Each class has two teachers — a *setup that reflects the focus on discussion-based, student-centered learning, in sharp contrast to the standardized methods of Japan's national education system.

In interviews, many parents cited the growing importance of English communication and leadership skills as a reason to send their children to an international school. Some parents said they see such schools as a better *pathway to overseas universities. Others expressed concerns about Japan's public school environment, including the highly competitive entrance exams. For some, international schools offer an alternative that *prioritizes creativity and collaboration over *rote memorization and standardized testing.

(出典)NHK World News 2025/04/25 “The growing pull of international schools for Japanese families” を一部改変。

注：*subsidies 補助金 *unaccredited 認可されていない

*face fines 罰金を科される *enforcement 施行 *jurisdiction 管轄

*boarding 寄宿 *see a shift 変化を感じる *setup 体制

*pathway to ～への道 *prioritize 優先させる

*rote memorization 丸暗記

問 1 下線部(1)は、国の行政機関の一つである。この機関の日本語の正式名称を書きなさい。

問 2 以下の5つの文章について、記事の要旨に合致するものには○を、合致しないものには×を書きなさい。

- (1) 日本にあるインターナショナルスクールの中には、国の行政機関によって正式な学校と認可されている学校も存在する。
- (2) 日本国内で子どもをインターナショナルスクールに通わせている日本人の親は、現行の教育法に違反しているため、場合によっては100万円から300万円という高額な罰金を科せられる可能性がある。
- (3) 記事中のインターナショナルスクールの事例では、入学者数が年々増加しており、その半数が日本人の生徒である。
- (4) 記事中のインターナショナルスクールの事例では、一学年わずか20人という少数精鋭でエリート教育を施していることが、日本人の親から高く評価されている。
- (5) 日本の公立学校および私立学校は、公的補助金を受ける資格がある。

問 3 下線部(2)の学校に通う場合のデメリットと見なすことのできる情報を記事の中から3点挙げなさい。

問 4 インターナショナルスクールを選ぶ日本人の保護者が増えているのはなぜか。記事中のインターナショナルスクールの事例に関して、記事から読みとれる理由を網羅して250字から300字の文章で説明しなさい。